

1. 騒音予測の前提条件の整理

(1) 対象店舗の概況

1) 営業時間

店舗	開店時刻	閉店時刻
クスリのアオキ	9時	24時

2) 荷さばき車両の受入時間帯と台数

施設	搬出入時間帯	搬出入車両台数	平均的な荷さばき 処理時間
N	6時～22時	5台/日	15分

3) 廃棄物収集車両台数

施設	収集時間	収集台数	収集時間
H	8時～17時	2台/日	5分

(2) 対象店舗周辺の住居等の立地状況

1) 対象店舗周辺の道路状況

店舗敷地北側に来客主経路となる県道が位置しているほかは、東側に市道が接道している。

2) 周辺の住宅等の立地状況

東側：道路、事業所

北側：道路、農地

西側：農地

南側：水路、農地

(3) 騒音予測の対象

騒音予測は、以下の項目について実施する。

- ・平均的な状況を呈する日における等価騒音レベル（昼間、夜間）
- ・騒音レベルの夜間最大値（夜間）

2．騒音予測の条件

1) 予測条件

(1) 自動車走行騒音の予測条件

来店車両台数の設定

新規店舗の来客車両台数については、指針に基づき算出する。

夜間に発生する台数は、日来台数を営業時間の 15 時間で割った 38.3 台が 1 時間に発生するものとして、午後 10 時～午前 0 時の 2 時間で 77 台が発生するものとした。

表 1 日来台数の算定

項目	算定	
S:店舗面積の合計	1.357 千m ²	
A:店舗面積当たり日来客数	1,059 人/千m ²	(指針)
C:自動車分担率	80 %	(指針)
D:平均乗車人員	2.0 人	(指針)
日来台数	575 台/日	

各経路の走行台数の設定

各経路の来客車両走行台数は、すべての経路に來台数が走行するものとして設定した。

表 2 各経路の走行台数

走行経路	来客車両		荷さばき車両		廃棄物収集車両	
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
経路1	575	77	0	0	0	0
経路2	575	77	0	0	0	0
経路3	575	77	0	0	0	0
経路4	575	77	0	0	0	0
経路5	575	77	0	0	0	0
経路6	575	77	0	0	0	0
経路7	575	77	10	0	4	0
経路8	575	77	0	0	0	0
経路9	575	77	10	0	4	0
経路10	575	77	10	0	4	0
経路11	575	77	10	0	4	0
経路12	0	0	10	0	4	0

経路の起点・終点の座標

各経路の起点・終点の座標は以下の通りである。

表 3 経路の起点・終点座標一覧

経路名	始点座標			終点座標		
	X	Y	Z	X	Y	Z
経路1	112.7	34.7	0.0	103.4	34.7	0.0
経路2	103.4	34.7	0.0	103.4	18.8	0.0
経路3	103.4	34.7	0.0	85.0	34.7	0.0
経路4	85.0	17.1	0.0	85.0	34.7	0.0
経路5	85.0	34.7	0.0	85.0	63.6	0.0
経路6	103.4	34.7	0.0	103.4	63.6	0.0
経路7	112.3	63.6	0.0	103.4	63.6	0.0
経路8	103.4	63.6	0.0	103.4	74.1	0.0
経路9	103.4	63.6	0.0	85.0	63.6	0.0
経路10	85.0	63.6	0.0	85.0	68.5	0.0
経路11	85.0	68.5	0.0	85.0	74.1	0.0
経路12	85.0	68.5	0.0	71.0	68.5	0.0

A特性音響パワーレベル L_{WA}

自動車走行音のA特性音圧レベルは、「大規模小売店舗から発生する騒音予測の手引き（平成12年9月、現 経済産業省）」に示される時速20kmで定常走行したと仮定した時の計算手法を用いた。

なお、同手引きにおいては、自動車工学に基づくパワーレベル式の係数として「自動車の走行パターンを考慮した道路交通騒音の予測（日本音響学会誌50巻3号，1994）」を用いて、乗用車を82dBとしている。搬入車両については、走行速度10km/hとし最新の知見である「自動車走行騒音のパワーレベルに関する検討（日本音響学会騒音振動研究会資料，1999）」を用いて計算した結果、パワーレベルは87.8dBとなった。また、乗用車が最徐行走行（10km/h）した場合のパワーレベルを同様に算定した結果、73.4dBとなった。以下に、計算式と計算結果を示す。

(i) タイヤ、路面からのパワーレベル ($L_{WA,t}$)

タイヤ、路面からの走行騒音のパワーレベルは次式で表される。

$$L_{WA,t} = A + B \log_{10}(V)$$

ただし、

$L_{WA,t}$: タイヤ、路面からの自動車走行騒音のA特性音圧レベル

A, B : 車種ごとに定まる係数

V : 速度 (km/h)

次表に計算に用いた各係数と計算結果を示す。

	A	B	V	$L_{WA,t}$
乗用車(徐行)	34.1	34.8	10	68.9
搬入トラック	37.4	34.2	10	71.6

係数 A, B は「自動車走行騒音のパワーレベルに関する検討（日本音響学会騒音振動研究会資料,1999）」による。

() エンジン系からのパワーレベル ($L_{WA,e}$)

エンジン系からの走行騒音のパワーレベルは次式で表される。

$$L_{WA,e} = A + B \log_{10}(S) + C \times L$$

$$S = \tau_i \tau_f \div (2\pi r) \times V / 3,600 \times 1,000 \times 60$$

$$L = T \div T_{max}$$

$$T = r \div (\tau_i \tau_f \eta) \times ((W + W_{ri}) / 9.8 \times \alpha + \mu_r W + \mu_A A V^2 + W \sin \theta)$$

ただし、

$L_{WA,e}$: エンジン系からの自動車走行騒音のA特性音圧レベル

A, B, C : 車種ごとに定まる係数 S : 回転数 L : エンジン負荷率

τ_i : 各ギア位置の減速比 τ_f : 終減速比 r : タイヤ半径 V : 速度(km/h)

T : エンジントルク T_{max} : エンジンの最大トルク η : 伝達効率 W : 車両重量

W_{ri} : 回転重量 α : 加速度 μ_r : 転がり抵抗係数 μ_A : 空気抵抗係数

A : 前面投影面積 θ : 道路の傾斜角度

次表に計算に用いた各係数と計算結果を示す。

	<i>A</i>	<i>B</i>	<i>C</i>	$L_{WA,e}$
乗用車(徐行)	-25.2	34.9	1.11	71.5
搬入トラック	-11.6	33	4.15	87.6

	終減速比 τf	タイヤ半径 (m) <i>r</i>	車両重量 (kg) <i>W</i>	伝達効率 η	転がり抵抗 μr	空気抵抗 μA	投影面積 (m ²) <i>A</i>	最大トルク <i>T</i> _{max}
乗用車(徐行)	4.566	0.30	1,520	0.92	0.015	0.0020	1.8	18.5
搬入トラック	4.875	0.36	3,205	0.92	0.013	0.0027	2.7	19.2

	速度 (km/h) <i>V</i>	減速比 τi	回転重量 <i>W</i> _{ri}	加速度 (m/s ²) α	傾斜角度 θ	回転数 <i>S</i>	エンジントルク <i>T</i>	負荷率 <i>L</i>
乗用車(徐行)	10	1.450	821	0	0	585.4	1.1407	6.2%
搬入トラック	10	2.780	1,474	0	0	998.6	1.2241	6.4%

係数 *A, B, C* は「自動車走行騒音のパワーレベルに関する検討(日本音響学会騒音振動研究会資料,1999)」による。自動車の緒言は、「自動車の走行パターンを考慮した道路交通騒音の予測(日本音響学会誌 50 巻 3 号,1994)」による。

() 全体としての自動車走行騒音の A 特性音圧レベル

タイヤ系とエンジン系の騒音を (a) 式により合成し、自動車走行騒音のパワーレベルとした。

$$L_{WA} = 10 \log_{10} (10^{L_{WA,t}/10} + 10^{L_{WA,e}/10}) \cdot \dots \cdot (a)$$

ただし、

L_{WA} : 全体としての自動車走行騒音の A 特性音圧レベル

計算結果を次表に示す。

	L_{WA}
乗用車 (徐行)	73.4
搬入トラック	87.8

(2) 自動車走行騒音以外（設備機器及び荷さばき作業等）の予測条件

表 4 定常騒音の予測条件

騒音種類	№	騒音発生源					継続時間		移動時間帯	座標		
		発生源	発生源の高さ (m)	基準距離における騒音レベル (dB)	基準距離 (m)	出典・根拠	昼間 (s)	夜間 (s)		発生源 (X,Y,Z)		
定常												
	C1	冷凍冷蔵室外機	1.5	66.0	1.0	メーカー資料	57,600	28,800	24時間	39.7	45.7	1.5
	C2	冷凍冷蔵室外機	1.5	66.0	1.0	メーカー資料	57,600	28,800	24時間	39.7	43.5	1.5
	A1	空調室外機	1.5	62.0	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	39.7	40.9	1.5
	A2	空調室外機	1.5	62.0	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	39.7	39.6	1.5
	A3	空調室外機	1.5	55.0	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	39.7	38.4	1.5
	A4	空調室外機	1.5	62.0	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	39.7	36.9	1.5
	A5	空調室外機	1.5	62.0	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	39.7	35.6	1.5
	A6	空調室外機	1.5	62.0	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	39.7	34.2	1.5
	F1	換気扇	3.5	37.5	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	50.8	71.6	3.5
	F2	換気扇	3.5	37.5	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	53.4	71.6	3.5
	F3	換気扇	3.5	37.5	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	75.2	51.8	3.5
	F4	換気扇	3.5	41.5	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	75.2	47.7	3.5
	F5	換気扇	3.5	41.5	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	75.2	38.4	3.5
	F6	換気扇	3.5	50.0	1.5	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	75.2	36.5	3.5
	F7	換気扇	3.5	50.0	1.5	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	75.2	35.2	3.5
	F8	換気扇	3.5	29.5	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	75.2	32.8	3.5
	F9	換気扇	3.5	29.5	1.0	メーカー資料	57,600	7,200	6:00～0:00	75.2	31.4	3.5
	Q	キュービクル	1.5	56.0	0.3	メーカー資料	57,600	28,800	24時間	72.1	61.0	1.5

表 5 変動騒音の予測条件

騒音種類	№	騒音発生源					継続時間		積算根拠	座標		
		発生源	発生源の高さ (m)	基準距離における騒音のエネルギー的な時間平均値 (dB)	基準距離 (m)	出典・根拠	昼間 (s)	夜間 (s)		発生源 (X,Y,Z)		
変動												
	N	台車走行音	0.0	71.0	1.0	手引き	1,500	0	5台×10回×30秒	71.0	68.5	0.0
	H	廃棄物収集音(圧縮有)	1.0	90.0	1.0	手引き	300	0	5分×1台	71.0	68.5	1.0
	H	廃棄物収集音(圧縮無)	1.0	85.0	1.0	手引き	300	0	5分×1台	71.0	68.5	1.0
	b	後進警報ブザー	0.5	90.0	1.0	手引き	70	0	10秒×7台	71.0	68.5	0.5

表 6 衝撃騒音の予測条件

騒音種類	№	騒音発生源					発生回数		積算根拠	座標		
		発生源	発生源の高さ (m)	基準距離における単発騒音暴露レベル (dB)	基準距離 (m)	出典・根拠	昼間	夜間		発生源 (X,Y,Z)		
衝撃												
	N	リフト昇降音	1.0	86.1	1.0	手引き	50	0	5台×10回	71.0	68.5	1.0
	N	リフト衝撃音	0.0	85.6	1.0	手引き	25	0	5台×5回	71.0	68.5	0.0

(3) 予測地点の選定

計画店舗周辺に生活環境を有する施設はないが、等価騒音レベルの予測地点は、騒音発生源位置を踏まえ敷地周辺に 4 地点(予測地点 A ～ D)を設定した。夜間最大値の予測地点は、等価騒音予測地点位置を踏まえ 4 地点 (予測地点 a ～ d) を設定した。

以下に、予測地点の選定根拠と各予測地点座標、環境基準値および規制基準値を示す。

表 7 予測地点の選定根拠および評価基準値

予測地点	選定理由	環境基準 規制基準	用途地域の 指定状況
A	敷地北側の駐車場出入口からの自動車走行による影響を把握するため、道路を挟んだ民地側敷地境界に設定。	道路に面する地域 B 類型 昼：65dB 夜：60dB	未指定
B	敷地南西側の荷さばき作業による影響を把握するため、店舗敷地境界に設定。	B 類型 昼：55dB 夜：45dB	
C	敷地南側の設備稼働による影響を把握するため、水路を挟んだ民地側敷地境界に設定。		
D	敷地東側の設備稼働による影響を把握するため、道路を挟んだ事業所側敷地境界に設定。		
a	等価騒音予測地点の店舗敷地側。	第二種区域 40dB	未指定
b	等価騒音予測地点と同一地点。		
c	等価騒音予測地点の店舗敷地側。		
d	等価騒音予測地点の店舗敷地側。		

当該エリアは用途未指定であるが、住居系の基準を採用して、B 類型および第二種区域とした。

表 8 予測地点の座標

予測地点名	X 座標(m)	Y 座標(m)	Z 座標(m)
A	128.1	34.7	1.2
B	71.0	78.1	1.2
C	4.8	40.9	1.2
D	39.7	10.4	1.2
a	112.7	34.7	1.2
b	71.0	78.1	1.2
c	15.9	40.9	1.2
d	39.7	17.8	1.2

3．予測結果

1) 等価騒音レベルの予測結果

全ての予測地点における等価騒音レベルの予測結果は環境基準を満足する結果となり、当該店舗から発生する騒音が、周辺の生活環境に与える影響は軽微であると判断する。

当該届出店舗における等価騒音レベルの予測の結果を下表に示す。

表9 等価騒音レベルの総合評価

区分	予測地点	高さ	定常騒音	変動騒音	衝撃騒音	自動車 走行騒音	等価騒音	環境 基準値
昼 間	A	1.2 m	33.5	32.8	20.6	38.4	40.5	65
	B	1.2 m	38.7	49.6	37.4	39.1	50.5	55
	C	1.2 m	41.2	32.1	20.0	29.9	42.0	55
	D	1.2 m	42.7	32.9	20.7	32.7	43.5	55
夜 間	A	1.2 m	31.2	0.0	0.0	32.5	34.9	60
	B	1.2 m	36.8	0.0	0.0	32.5	38.2	45
	C	1.2 m	39.1	0.0	0.0	23.9	39.2	45
	D	1.2 m	39.9	0.0	0.0	26.8	40.1	45

表 10 発生源ごとの予測結果

<昼間>

騒音発生源		基準距離における 騒音レベル(dB)		騒音継続時間 または 発生回数	予測地点までの距離(m)				各地点の等価騒音レベル(dB)					
					地点A	地点B	地点C	地点D	地点A	地点B	地点C	地点D		
定常	C1	冷凍冷蔵室外機	66.0	メーカー資料	24時間	89.1	45.1	35.2	35.3	27.0	32.9	35.1	35.0	
	C2	冷凍冷蔵室外機	66.0	メーカー資料	24時間	88.8	46.7	35.0	33.1	27.0	32.6	35.1	35.6	
	A1	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.6	48.6	34.9	30.5	23.0	28.3	31.1	32.3	
	A2	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.5	49.6	34.9	29.2	23.1	28.1	31.1	32.7	
	A3	空調室外機	55.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.5	50.6	35.0	28.0	16.1	20.9	24.1	26.1	
	A4	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.4	51.7	35.1	26.5	23.1	27.7	31.1	33.5	
	A5	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.4	52.8	35.3	25.2	23.1	27.6	31.0	34.0	
	A6	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.4	53.9	35.5	23.8	23.1	27.4	31.0	34.5	
	F1	換気扇	37.5	メーカー資料	6:00～0:00	85.7	21.3	55.4	62.2	0.0	10.9	2.6	1.6	
	F2	換気扇	37.5	メーカー資料	6:00～0:00	83.3	18.9	57.5	62.8	0.0	12.0	2.3	1.5	
	F3	換気扇	37.5	メーカー資料	6:00～0:00	55.6	26.7	71.3	54.6	2.6	9.0	0.4	2.8	
	F4	換気扇	41.5	メーカー資料	6:00～0:00	54.5	30.8	70.8	51.5	6.8	11.7	4.5	7.3	
	F5	換気扇	41.5	メーカー資料	6:00～0:00	53.1	40.0	70.5	45.3	7.0	9.5	4.5	8.4	
	F6	換気扇	50.0	メーカー資料	6:00～0:00	53.0	41.9	70.6	44.1	19.0	21.1	16.5	20.6	
	F7	換気扇	50.0	メーカー資料	6:00～0:00	53.0	43.2	70.7	43.4	19.0	20.8	16.5	20.8	
	F8	換気扇	29.5	メーカー資料	6:00～0:00	53.0	45.6	70.9	42.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	F9	換気扇	29.5	メーカー資料	6:00～0:00	53.1	46.9	71.1	41.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	Q	キュービクル	56.0	メーカー資料	24時間	61.9	17.1	70.2	60.1	9.7	20.9	8.6	10.0	
	変動	N	台車走行音	71.0	手引き	5台×10回×30秒	66.4	9.7	71.7	66.0	18.7	35.4	18.0	18.8
H		廃棄物収集音(圧縮有)	90.0	手引き	5分×1台	66.4	9.6	71.7	66.0	30.7	47.5	30.1	30.8	
H		廃棄物収集音(圧縮無)	85.0	手引き	5分×1台	66.4	9.6	71.7	66.0	25.7	42.5	25.1	25.8	
衝撃	b	後進警報ブザー	90.0	手引き	10秒×7台	66.4	9.6	71.7	66.0	24.4	41.2	23.7	24.5	
	N	リフト昇降音	86.1	手引き	5台×10回	66.4	9.6	71.7	66.0	19.0	35.8	18.4	19.1	
	N	リフト衝撃音	85.6	手引き	5台×5回	66.4	9.7	71.7	66.0	15.5	32.3	14.9	15.6	
自動車 走行	R1	自動車走行音	小型車	ASJ-model	手引き	575回	17.8	55.6	101.1	70.4	30.3	21.1	15.9	19.0
	R2	自動車走行音	82.0		575回	24.9	56.3	99.0	64.7	30.2	22.9	18.6	22.2	
	R3	自動車走行音	大型車		575回	27.0	46.4	82.7	53.5	28.9	25.3	20.2	23.8	
	R4	自動車走行音			575回	43.2	47.7	80.6	46.2	26.1	24.4	20.8	25.4	
	R5	自動車走行音			575回	43.2	22.0	80.2	52.6	27.9	31.6	23.0	25.7	
	R6	自動車走行音			575回	24.8	36.6	98.6	69.1	32.0	28.5	21.2	23.7	
	R7	自動車走行音			589回	34.1	37.6	103.4	84.7	25.8	24.9	16.3	18.0	
	R8	自動車走行音			575回	40.1	33.1	101.8	84.7	24.3	26.2	16.5	18.0	
	R9	自動車走行音			589回	39.6	21.8	85.6	71.4	27.0	31.5	20.7	22.3	
	R10	自動車走行音			589回	53.3	18.5	84.1	71.8	19.6	28.8	15.7	17.1	
	R11	自動車走行音			589回	56.6	15.6	85.8	75.9	19.7	30.9	16.1	17.2	
	R12	自動車走行音			14回	56.6	10.0	73.9	67.1	15.1	29.2	12.8	13.8	
昼間(6:00～22:00)の等価騒音レベル						地点A	40.5		dB	地点C	42.0		dB	
						地点B	50.5		dB	地点D	43.5		dB	
地域の類型						地点A	道路に面する地域B類型			地点C	B 類型			
						地点B	B 類型			地点D	B 類型			
環境基準						地点A	65		dB	地点C	55		dB	
						地点B	55		dB	地点D	55		dB	

<夜間>

騒音発生源				基準距離における 騒音レベル(dB)	騒音継続時間 または 発生回数	予測地点までの距離(m)				各地点の等価騒音レベル(dB)			
						地点A	地点B	地点C	地点D	地点A	地点B	地点C	地点D
定常	C1	冷凍冷蔵室外機	66.0	メーカー資料	24時間	89.1	45.1	35.2	35.3	27.0	32.9	35.1	35.0
	C2	冷凍冷蔵室外機	66.0	メーカー資料	24時間	88.8	46.7	35.0	33.1	27.0	32.6	35.1	35.6
	A1	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.6	48.6	34.9	30.5	17.0	22.2	25.1	26.3
	A2	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.5	49.6	34.9	29.2	17.0	22.1	25.1	26.7
	A3	空調室外機	55.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.5	50.6	35.0	28.0	10.0	14.9	18.1	20.0
	A4	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.4	51.7	35.1	26.5	17.0	21.7	25.1	27.5
	A5	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.4	52.8	35.3	25.2	17.0	21.5	25.0	28.0
	A6	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	88.4	53.9	35.5	23.8	17.1	21.3	25.0	28.4
	F1	換気扇	37.5	メーカー資料	6:00～0:00	85.7	21.3	55.4	62.2	0.0	4.9	-3.4	-4.4
	F2	換気扇	37.5	メーカー資料	6:00～0:00	83.3	18.9	57.5	62.8	0.0	5.9	-3.7	-4.5
	F3	換気扇	37.5	メーカー資料	6:00～0:00	55.6	26.7	71.3	54.6	-3.4	2.9	-5.6	-3.3
	F4	換気扇	41.5	メーカー資料	6:00～0:00	54.5	30.8	70.8	51.5	0.7	5.7	-1.5	1.2
	F5	換気扇	41.5	メーカー資料	6:00～0:00	53.1	40.0	70.5	45.3	1.0	3.4	-1.5	2.4
	F6	換気扇	50.0	メーカー資料	6:00～0:00	53.0	41.9	70.6	44.1	13.0	15.1	10.5	14.6
	F7	換気扇	50.0	メーカー資料	6:00～0:00	53.0	43.2	70.7	43.4	13.0	14.8	10.5	14.8
	F8	換気扇	29.5	メーカー資料	6:00～0:00	53.0	45.6	70.9	42.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	F9	換気扇	29.5	メーカー資料	6:00～0:00	53.1	46.9	71.1	41.3	0.0	0.0	0.0	0.0
Q	キュービクル	56.0	メーカー資料	24時間	61.9	17.1	70.2	60.1	9.7	20.9	8.6	10.0	
自動車 走行	R1	自動車走行音	小型車 82.0	手引き	77回	17.8	55.6	101.1	70.4	24.6	15.4	10.2	13.3
	R2	自動車走行音			77回	24.9	56.3	99.0	64.7	24.5	17.2	12.9	16.5
	R3	自動車走行音			77回	27.0	46.4	82.7	53.5	23.2	19.6	14.5	18.0
	R4	自動車走行音			77回	43.2	47.7	80.6	46.2	20.4	18.7	15.0	19.6
	R5	自動車走行音			77回	43.2	22.0	80.2	52.6	22.2	25.9	17.3	20.0
	R6	自動車走行音			77回	24.8	36.6	98.6	69.1	26.3	22.8	15.5	18.0
	R7	自動車走行音			77回	34.1	37.6	103.4	84.7	19.4	18.4	9.9	11.6
	R8	自動車走行音			77回	40.1	33.1	101.8	84.7	18.6	20.5	10.8	12.3
	R9	自動車走行音			77回	39.6	21.8	85.6	71.4	20.6	25.0	14.2	15.9
	R10	自動車走行音			77回	53.3	18.5	84.1	71.8	13.2	22.4	9.2	10.6
	R11	自動車走行音			77回	56.6	15.6	85.8	75.9	13.3	24.4	9.6	10.7
夜間(22:00～6:00)の等価騒音レベル						地点A	34.9	dB		地点C	39.2	dB	
						地点B	38.2	dB		地点D	40.1	dB	
地域の類型						地点A	道路に面する地域B類型			地点C	B 類型		
						地点B	B 類型			地点D	B 類型		
環境基準						地点A	60	dB		地点D	45	dB	
						地点B	45	dB		地点E	45	dB	

2) 夜間最大値の予測結果

夜間最大値は、設備機器（定常）騒音については規制基準値を下回る結果となった。

来客車両走行音については、地点a、b、dにおいて規制値を上回る結果となったが、店舗周辺には生活環境はなく、また、夜間の来客はわずかであり、全ての予測地点で環境基準を満たしている状況であり影響は限定的と考える。

よって、周辺的生活環境に及ぼす影響は軽微であると考えられるが、地元住民より苦情等があった場合には、誠意を持って対応することとする。

表 11 夜間最大値の予測結果

騒音発生源			基準距離における 騒音レベル(dB)		騒音継続時間 または 発生回数	予測地点までの距離 (m)				各地点の騒音レベル (dB)				
						地点a	地点b	地点c	地点d	地点a	地点b	地点c	地点d	
定常	C1	冷凍冷蔵室外機	66.0	メーカー資料	24時間	73.8	45.1	24.3	27.9	28.6	32.9	38.3	37.1	
	C2	冷凍冷蔵室外機	66.0	メーカー資料	24時間	73.5	46.7	23.9	25.7	28.7	32.6	38.4	37.8	
	A1	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	73.3	48.6	23.8	23.1	24.7	28.3	34.5	34.7	
	A2	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	73.2	49.6	23.8	21.8	24.7	28.1	34.5	35.2	
	A3	空調室外機	55.0	メーカー資料	6:00～0:00	73.1	50.6	23.9	20.6	17.7	20.9	27.4	28.7	
	A4	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	73.0	51.7	24.1	19.1	24.7	27.7	34.3	36.4	
	A5	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	73.0	52.8	24.4	17.8	24.7	27.6	34.3	37.0	
	A6	空調室外機	62.0	メーカー資料	6:00～0:00	73.0	53.9	24.7	16.4	24.7	27.4	34.1	37.7	
	F1	換気扇	37.5	メーカー資料	6:00～0:00	72.1	21.3	46.5	55.0	0.3	10.9	4.1	2.7	
	F2	換気扇	37.5	メーカー資料	6:00～0:00	69.9	18.9	48.5	55.6	0.6	12.0	3.8	2.6	
	F3	換気扇	37.5	メーカー資料	6:00～0:00	41.3	26.7	60.3	49.2	5.2	9.0	1.9	3.7	
	F4	換気扇	41.5	メーカー資料	6:00～0:00	39.8	30.8	59.7	46.5	9.5	11.7	6.0	8.2	
	F5	換気扇	41.5	メーカー資料	6:00～0:00	37.8	40.0	59.4	41.1	10.0	9.5	6.0	9.2	
	F6	換気扇	50.0	メーカー資料	6:00～0:00	37.6	41.9	59.5	40.2	22.0	21.1	18.0	21.4	
	F7	換気扇	50.0	メーカー資料	6:00～0:00	37.6	43.2	59.6	39.6	22.0	20.8	18.0	21.6	
	F8	換気扇	29.5	メーカー資料	6:00～0:00	37.6	45.6	59.9	38.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	F9	換気扇	29.5	メーカー資料	6:00～0:00	37.7	46.9	60.1	38.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	Q	キュービクル	54.0	メーカー資料	24時間	48.4	17.1	59.7	54.0	11.9	20.9	10.0	10.9	
自動車 走行	R1	自動車走行音	小型車 82.0	手引き	77回	2.6	55.6	90.0	68.2	65.6	39.1	34.9	37.3	
	R2	自動車走行音			77回	9.7	56.3	88.0	63.8	54.2	39.0	35.1	37.9	
	R3	自動車走行音			77回	11.7	46.4	71.7	50.5	52.7	40.7	36.9	39.9	
	R4	自動車走行音			77回	27.8	47.7	69.6	45.3	45.1	40.4	37.1	40.9	
	R5	自動車走行音			77回	27.8	22.0	69.1	49.3	45.1	47.2	37.2	40.2	
	R6	自動車走行音			77回	9.7	36.6	87.5	66.6	54.3	42.7	35.2	37.5	
	R7	自動車走行音			77回	29.0	37.6	92.6	80.3	44.7	42.5	34.7	35.9	
	R8	自動車走行音			77回	32.9	33.1	91.1	80.0	43.7	43.6	34.8	35.9	
	R9	自動車走行音			77回	31.2	21.8	74.9	66.1	44.1	47.2	36.5	37.6	
	R10	自動車走行音			77回	41.9	18.5	73.5	66.2	41.6	48.7	36.7	37.6	
	R11	自動車走行音			77回	45.9	15.6	75.5	70.1	40.8	50.1	36.4	37.1	
騒音レベルの夜間最大値						地点a	65.6		dB	地点c	38.4			dB
						地点b	50.1		dB	地点d	40.9			dB
区域の区分						地点a	第2種区域			地点c	第2種区域			
						地点b	第2種区域			地点d	第2種区域			
規制基準						地点a	40		dB	地点c	40			dB
						地点b	40		dB	地点d	40			dB

< 騒音予測の方法 >

1) 予測方法

等価騒音レベルは、音の伝播理論に基づく予測式を用いて予測する。予測計算手順のフローを次に示す。

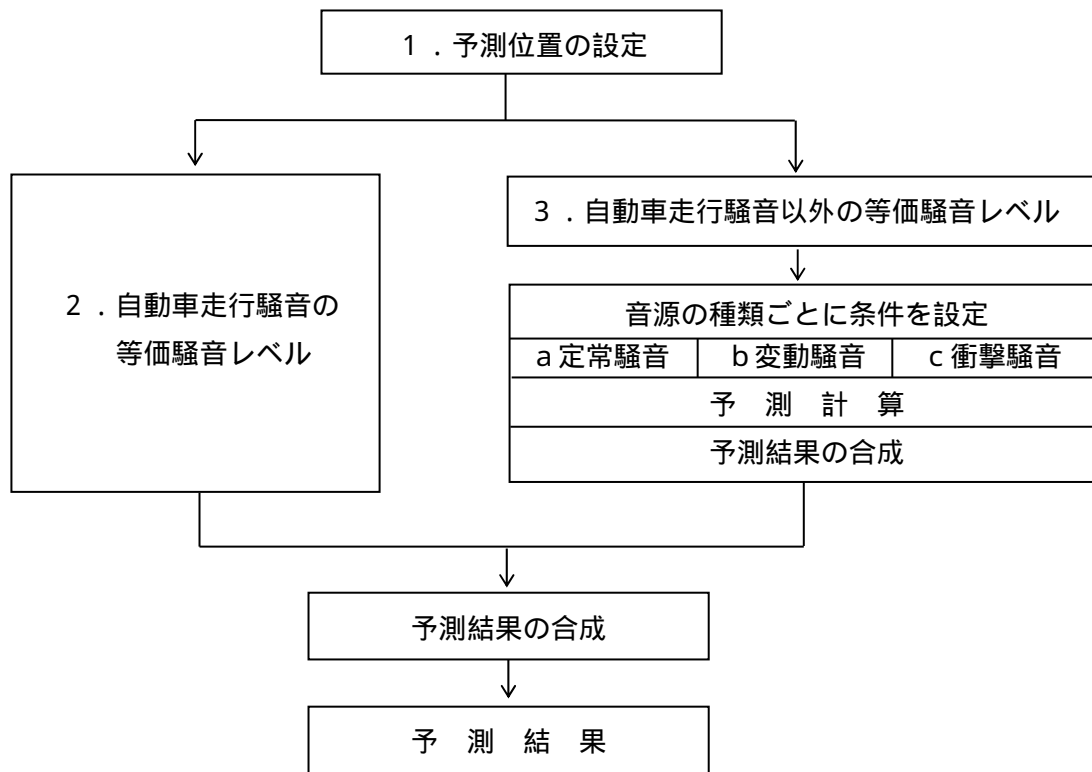


図 計算手順のフロー

予測計算式は以下に示すとおりである。

(1) 各種騒音源からの等価騒音レベルの合成

自動車走行騒音については、ASJ RTN-Model 2013 を用いて対象とする時間帯の等価騒音レベル ($L_{Aeq,T,vehicle}$)。これ以外の騒音については定常騒音、変動騒音及び衝撃騒音を考慮して対象とする時間帯の等価騒音レベル ($L_{Aeq,T,store}$) を計算して、次式を用いて全体としての等価騒音レベル ($L_{Aeq,T}$) を計算する。

$$L_{Aeq,T} = 10 \log_{10} \left(10^{L_{Aeq,T,vehicle}/10} + 10^{L_{Aeq,T,store}/10} \right) \dots \dots \dots (1)$$

(2) 自動車走行騒音の予測基本式

敷地内における自動車走行等による騒音は、日本音響学会が提案している ASJ RTN-Model 2013 を用いて計算する。

予測計算のフローを次に示す。

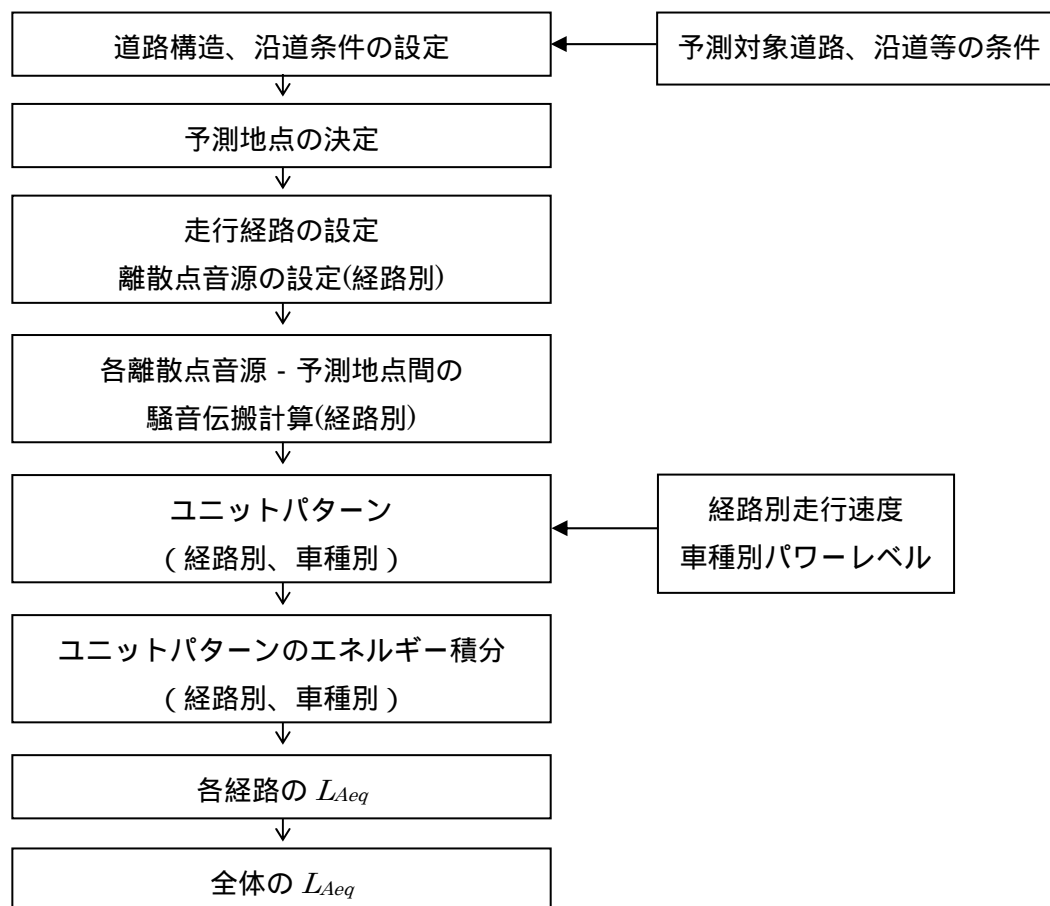


図 2 自動車走行騒音の等価騒音レベルの予測フロー

予測の基本式は次のとおりである。

$$L_{Aeq,T,vehicle} = L_{AE} + 10 \log_{10} \frac{N_T}{T} \quad \dots \dots \dots (2)$$

$$L_{AE} = 10 \log_{10} \left\{ \frac{1}{T_0} \sum_i (10^{L_{pAi}/10} \cdot \Delta t_i) \right\} \quad \dots \dots \dots (3)$$

ただし、 L_{AE} : 単発騒音暴露レベル (ユニットパターンのエネルギー積分値) [dB]
 N_T : 時間範囲 T [s] の間の交通量 [台]
 T : 対象とする基準時間帯の時間 [s] (昼間は 57,600 [s]、夜間は 28,800 [s])
 T_0 : 基準時間、1 [s]
 L_{pAi} : i 番目の区間を通過する自動車による予測地点における騒音レベル
 Δt_i : 自動車が i 番目の区間を通過する時間 [s]

パワーレベルが L_{WA} の 1 台の自動車による騒音レベル $L_{pA,i}$ は、無指向性点音源の半自由空間における伝搬を考えて次式で計算する。

$$L_{pA,i} = L_{WA} - 8 - 20 \log_{10} r_i + \Delta L_{d,i} + \Delta L_{g,i} \dots\dots\dots (4)$$

ここで L_{WA} は、ASJ RTN-Model 2013 で提案されている“自動車工学に基づくパワーレベル式”を用いて、速度 20km/h の低速で定常走行するという前提で設定した値を用いる。

回折効果による補正量 ΔL_d は次式を用いて計算する。

$$\Delta L_d = \begin{pmatrix} -10 \log_{10} \delta - 20 & \delta \geq 1 \\ -5 \pm 17 \sinh^{-1}(|\delta|^{0.414}) & -0.053 \leq \delta < 1 \\ 0 & \delta < -0.053 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (5)$$

注) 1. $\pm$ 符号の $+$ は $\delta < 0$, $-$ は $\delta > 0$ のとき

2. 式中の $\sinh^{-1} x$ は $\sinh^{-1} x = \ln \left[x + (x^2 + 1)^{1/2} \right]$ の関係を用いて計算できる。

($\ln$: 自然対数)

回折効果による補正については、特に断りのない場合は、安全側に考慮し、 $\Delta L_d = 0$ とする。

また、地表面効果による補正量は、対象店舗の敷地内を舗装路面とすること、発生源から予測地点間の地表面が舗装路面であることから地表面の実効的流れ抵抗を 20,000[kPa・s・m⁻²]以上とし、常に $\Delta L_g = 0$ とする。

(3) 自動車走行騒音以外の騒音の予測基本式

$$L_{Aeq,Tstore} = 10 \log_{10} \left\{ \frac{1}{T} \left(\sum_i T_i \cdot 10^{\frac{L_{pA,i}}{10}} + \sum_j T_j \cdot 10^{\frac{\overline{L_{pA,j}}}{10}} + \sum_k T_0 \cdot N_k \cdot 10^{\frac{L_{AE,k}}{10}} \right) \right\} \dots (6)$$

ここで、

- T : 対象とする時間区分の時間[s] (昼間は 57,600[s]、夜間は 28,800[s])
- T_i : 対象とする時間区分における i 番目の定常騒音の継続時間[s]
- T_j : 対象とする時間区分における j 番目の変動騒音の継続時間[s]
- T_0 : 基準時間、1 [s]
- $L_{pA,i}$: i 番目の定常騒音源による予測地点における騒音レベル[dB]
- $\overline{L_{pA,j}}$: j 番目の変動騒音源による予測地点における騒音のエネルギー的な時間平均値[dB]
- N_k : 対象とする基準時間帯において発生する k 番目の衝撃騒音の発生回数
- $L_{AE,k}$: k 番目の衝撃騒音源からの騒音の単発騒音暴露レベル[dB]

定常騒音源 (設備機器) の場合

$$L_{pA,i} = L_{pA,i}(r_0) - 20 \log_{10} \frac{r_i}{r_0} + \Delta L_{d,i} \dots \dots \dots (7)$$

ここで、

- $L_{pA,i}$: i 番目の騒音源による予測地点における騒音レベル[dB]
- $L_{pA,i}(r_0)$: i 番目の騒音源による基準距離における騒音レベル[dB]
- r_i : i 番目の騒音源から予測地点までの距離[m]
- r_0 : 基準距離、1 [m]
- $\Delta L_{d,i}$: i 番目の騒音源に対する回折効果に関する補正量[dB] (負の値)

変動騒音源 (廃棄物収集作業等) の場合

$$\overline{L_{pA,j}} = \overline{L_{pA,j}}(r_0) - 20 \log_{10} \frac{r_j}{r_0} + \Delta L_{d,j} \dots \dots \dots (8)$$

ここで、

- $\overline{L_{pA,j}}$: j 番目の騒音源による予測地点における騒音のエネルギー的な時間平均値 [dB]
- $\overline{L_{pA,j}}(r_0)$: j 番目の騒音源による基準距離における騒音のエネルギー的な時間平均値 [dB]
- r_j : j 番目の騒音源から予測地点までの距離[m]
- r_0 : 基準距離、1 [m]
- $\Delta L_{d,j}$: j 番目の騒音源に対する回折効果に関する補正量[dB] (負の値)

衝撃騒音源の場合

$$L_{AE,k} = L_{AE,k}(r_0) - 20 \log_{10} \frac{r_k}{r_0} + \Delta L_{d,k} \dots\dots\dots (9)$$

ここで、

$L_{AE,k}$: k 番目の騒音源による予測地点における単発騒音暴露レベル[dB]

$L_{AE,k}(r_0)$: k 番目の騒音源による基準距離における単発騒音暴露レベル[dB]

r_k : k 番目の騒音源から予測地点までの距離[m]

r_0 : 基準距離、1 [m]

$\Delta L_{d,k}$: k 番目の騒音源に対する回折効果に関する補正量[dB] (負の値)

回折効果に関する補正量は L_d は次式を用いて計算する。

$$\Delta L_d = \begin{pmatrix} -10 \log_{10} N - 13 & N \geq 1 \\ -5 \pm 9.1 \sinh^{-1}(|N|^{0.485}) & -0.322 < N < 1 \\ 0 & N < -0.322 \end{pmatrix} \dots\dots\dots (10)$$

N : フレネル数

($N = 2\delta/\lambda$ 、 δ : 行路差[m]、 λ : 波長[m])

ただし、フレネル数 N の符号は、予測地点から騒音源を見通せない場合は正、見通せる場合は負の値をとる。

式中の $\pm$ 符号の $+$ は $N < 0$ 、 $-$ は $N > 0$ のときに用いる。

また、式中の $\sinh^{-1} x$ は $\sinh^{-1} x = \ln \left[x + (x^2 + 1)^{1/2} \right]$ の関係を用いて計算できる。

($\ln$: 自然対数)

回折効果による補正については、特に断りのない場合は、安全側に考慮し、 $\Delta L_d = 0$ とする。

(4) 騒音の発生源ごとの騒音レベルの最大値の予測

騒音の発生源ごとの騒音レベルの最大値は、音の伝播理論に基づく予測式を用いて予測する。

定常騒音は、次式により計算する。

$$L_{pA,i} = L_{pA,i}(r_0) - 20 \log_{10} \frac{r_i}{r_0} + L_{d,i}$$

ただし、

$L_{pA,i}$: i 番目の騒音源による予測地点における騒音レベル [dB]

$L_{pA,i}(r_0)$: i 番目の騒音源による基準距離における騒音レベル [dB]

r_i : i 番目の騒音源から予測地点までの距離 [m]

r_0 : 基準距離 , 1 [m]

$\Delta L_{d,i}$: i 番目の騒音源に対する回折効果に関する補正量 [dB] (負の値)

なお、自動車走行音は式(4)、変動騒音は式(8)、衝撃騒音は式(9)を基に基準距離における騒音レベルの最大値により求める。